き抜いた姉妹らの姿が浮き上がってきます。また、晩年の楫子が残した書が飾られたコーナーもあり、力強い筆勢からその人となりを感じます。

建物の外観は、かつての矢嶋家住居を復元。ここではボランティアガイドの皆さんが交代で常駐し、矢嶋家にまつわるエピソードも聞かせてくれます。また、4姉妹の人生を描いたコミック本「四賢婦人物語」も販売されており、読み手に分かりやすく伝えています。

幕末から明治へと、激動の時代に活躍した偉人たちとも関わりを持つ矢嶋家の人たち。「四賢婦人記念館」を訪れると、楫子をはじめとする矢嶋一族の生き方に、がぜん興味が湧くはずです。

布田川の前にたたずむ、かつての矢嶋家があった場所。森川さんのご自宅で、庭木の剪定(せんてい)も見事です

布田川橋から撮影された、矢嶋家の住居。西側の方角に向けて立っています（提供＝四賢婦人記念館）

矢嶋家住居跡を訪ねて

杉堂地区の集落を流れる布田川沿いにある、森川恭一(もりかわきょういち)さん(80)の自宅はかつての矢嶋家があった場所に立っています。「曾祖父の矢嶋市平は森川家に養子に入っています。矢嶋家とは何らかの関わりがあり、住居を譲り受けたのだと思われます」と話す恭一さんは、矢嶋家住居で生まれ育ちました。

そこでは、徳富蘇峰が生まれています。水俣の徳富家に嫁いだ矢嶋家4女の久子は男児に恵まれず、5人目となる蘇峰の出産に杉堂の実家を選んだのは、赤子がまた女児ならば徳富家には戻らないと覚悟してのことだったそうです。

話は戻りますが、今から42年前、恭一さんが古くなった家を建て替えようとしたところ、「貴重な建築物を残して欲しい」という声が上がりました。悩んだ末、屋敷に残されていた矢嶋家の間取り図や、解体時の貴重品を町に寄贈し理解を得たそうです。

森川家には、矢嶋家住居の鬼瓦が大切に保管され、生家を訪ねた蘇峰が贈った直筆の書も残されています。

矢嶋家住居で生まれ育ったという、森川さん

矢嶋家の住居に使われた鬼瓦。瓦を塗り直して大切に保管されています

楫子が嫁いだ武家屋敷

楫子が武士の林七郎と10年間の結婚生活を送った家が、上小谷地区の荒瀬橋のたもとにある林富美子(はやしふみこ)さん(77)のお宅です。林さんは七郎の玄孫(やしゃご)にあたります。

万延2(1861)年に建てられた、築160年以上になる武家屋敷を今回、特別に見せてもらいました。かつての裏木戸だった現在の玄関口をくぐると、高い天井が広がります。

「土間は板張りにしましたが、表の間や座敷、奥の間、楫子さんたちが食事をした板の間の囲炉裏は当時のままです」と林さん。熊本地震にも耐えたこの家には、大きな柱や梁(はり)が随所に巡らされています。その豪壮な家の構えには、在御家人だった林七郎の誇りが伝わります。

林さんは、「先祖が残してくれたこの家を、これからも大切に守っていきます」と、穏やかな笑顔を見せました。

木山川に架かる荒瀬橋のたもとにある、林家

話を聞かせてくれた林さん。とてもエレガントな女性です

楫子たちが食事をとった板の間の囲炉裏もそのままです

在御家人の家柄の風格が随所に残っています